

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年1月8日(金)

### 《み言葉は、伝えずにいられないもの》

質問をします。皆様は、カトリック信者であることを誇りに思っていますか？ そうではないと思う人は手をあげてください、と言っても誰も手をあげる人はいませんよね。では、違う角度から質問をしてみましょう。カトリック信仰を持って、後悔をしたことがある、という方はいらっしゃいますか？ もちろん、子どもの時やいろいろな難しさにぶつかった時には、そのような思いが生じたことはあったかもしれません。しかし、多くの信者の方は、今まで歩んできた信仰、自分が持っている信仰を誇りにされていると思います。

さあ、今日の福音(ルカ 5・12 16)に入ってみましょう。

イエス様は、いろいろな治癒、癒しを見せた後、いつも「誰にも話してはいけない。」とおっしゃっていますね。今日の福音にも「厳しくお命じになった。」と書かれています。その理由は分かりません。今の神学者達もみ心を図ろうといろいろな推測をしていますが、真実は、イエス様ご自身にしか分からないでしょう。ただ、癒された人はみんな、厳しく言われたのにもかかわらず、人に話しています。そして、「その噂がますます広まった。」と聖書のあちこちに書かれています。

今日の福音も同じでしたね。癒された人は、そのことを人に伝えたかったのです。だから、そのように広まったのです。ということは、厳しく口止めされても、人に知らせずにはいられない気持ちだったのでしょう。「このようなことが起こったのに、自分だけ知っているのでは我慢できない。だから、申し訳ないけれど、話します。」という気持ちで、あちこちに話したのでしょう。

これは、ある意味では本能的な宣教です。人間が一番本能的に持っている心の働きだと思います。自分が体験したこと、今まで聞いたこともないような体験、その体験に夢中になってしまいます。そして、それを叫ばなければいられない気持ちになります。カトリック信仰を誇りとしている皆様は、「イエス様のみ言葉を知らせずにはいられない」という心の働きを体験なさったことがあるでしょうか。

私は、日本の生活が7年になりますが、今日の福音を読みながら自分なりにこのように考えてみました。やはり、その国の文化というものは無視できないと思います。人と人とのつきあいが多く、思ったことはすぐに遠慮もなく人に伝えられる文化の国もありますが、日本のようになかなか人の心に入り難い文化もあります。しかし、すぐに友達になる文化はすぐに敵にもなります。逆に、すごく時間をかけて友達になる日本のような文化は、一度友達になったらその友情は最後まで続く場合が多いです。そして、たくさん話し合い、表現をして信仰を伝える文化もありますが、私の体験した日本の文化は、言葉より薫を感じさせて伝える場合が多いのではないかと思います。それが日本の国民には合うのではないかと個人的に判断しています。

日本人は、すぐには自分を表現しないですね。そして、「寒い」とか「素晴らしい」などの当たり前の言葉はよく口にします。それらは、誰でも同じ言葉を使います。「寒い」「暑い」「きれい」、みんなが同じ言葉を使います。ということは、本当に自分の心で感じていることは、あまり表面に出さな

い、ということです。誰もが使う一般的な言葉を使うのが日本の文化です。その理由はよく分かりませんが、私はそのように感じています。私が育った韓国では、男の子が外に出て「寒い」「寒い」とばかり言ったら、おかしいのではないかとされます。そんなに表現することがないのかと言われるのです。これが文化の差です。

日本人の信者に、「なぜ信仰の喜びを人に伝えないのでしょうか」と聞いてみたことがあります。自分の家族にさえあまり伝えないですね。すると、「自分でも信仰生活がよく分かっていないし、十分な信仰を持ってもないのに、申し訳なくて他の人に伝えられない。」という返事が返ってきました。しかし、2000年間のカトリックの歴史の中で、自信を持って完璧な信仰を伝えた人が何人いたでしょうか。このような考えは間違えだと思えます。自信がなくてもよいのです。皆様は、感じられたこと、体験したことを、自然に話してください。言いにくければ、薫で表してください。もし、私たちの生き方がきれいならば、蝶が花の薫に近づいてくるように、まわりの人々に何かの影響を与えられるでしょう。

皆様、今日の福音のような体験が私にはなかったので、そのような気持ちが分かりません、とは言わないでください。ご自分の人生をよく振り返ってみれば、奇跡でないことは一度もなかったと思いつくでしょう。同じようなものを見てもそのように感じられない人がいれば、皆様が感じられたことを自然に伝えるのが福音宣教ではないかと思えます。皆様の一つ一つの振る舞い、そしてまなざしが人を救うかもしれません。私たちには、そういう意識が必要ではないでしょうか。“これを伝えずにはいられない”という気持ちが私たち一人一人の中にできれば、最高の力になるのではないかと思えます。

今日の福音をとおして、「み言葉は伝えるべきもの」であることをもう一回考えてみてください。それは、義務的に考えるのではなく、こんなに素晴らしい、こんなにきれいなことを私だけが分かったのではもったいない、という気持ちになって伝えていただければ最高ではないかと思ってみました。

ありがとうございました。